

博物館だより



No.175

令和3年6月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666
FAX 0930-33-4667

◆博物館NEWS

「お宝マップ」がさらに充実！ みやこ町歴史たんけんマップ第4弾 「自然遺産(樹木)編」が完成！

みやこ町文化遺産活用実行委員会(藤本孝彦会長) 監修のもと制作を進めてきた町の文化遺産の魅力を紹介する「歴史たんけんマップ」

「お宝マップ」がさらに充実！
第4弾となる「自然遺産(樹木)編」がこのほど完成しました。町内の樹木(名木・珍木・ゆかりの木)のデータやエピソードを紹介するもので、特色ある7つの樹木(千女房桜・蔵持の大杉等)を紹介しています。入手希望の方は博物館へお問合せ下さい。



▲マップとクイズが載る裏面 クイズで町の樹木の魅力を紹介しています
表面は「天八幡神社の大樟」など名物樹木のデータ等紹介しています

◆講座・教室・催し物ガイド 6月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】
6月5日(土) 9時30分～
- 【古文書講座】
6月12日(土) 10時～
- 【古典かな講座】
6月19日(土) 9時30分～
- 【みやこ学講座】
6月26日(土) 10時～

※新型コロナウイルス感染症防止対応に伴い、日程等変更となる場合があります。
※見込人数等は別途ご案内します。

文化遺産ボランティア養成講座第6期参加者募集!

今期講座は「実稼働特別編②」。コロナ禍での活動メニューは、屋外活動を中心に、少人数で安全に楽しめるもの。具体的にどんなものがあるのか? 知恵と工夫を出し合いながら共に答えを探しましょう。「町のお宝の魅力」を発信する取組が誰かの癒しとなります。一緒にいかがですか!

※6月6日(日)以降月1回程度。
申込時に詳細案内します。
※申込先 33-4666へ

4・5月の業務日誌から

4月16日(金)、節丸小学校の児童が、郷土の学習の中で博物館を訪れました。節丸校区に3500年前の集落跡が発見され、この遺跡から出土した美しい模様を施した土器など地域の「ご先祖様」の文化に触れた一日となりました。

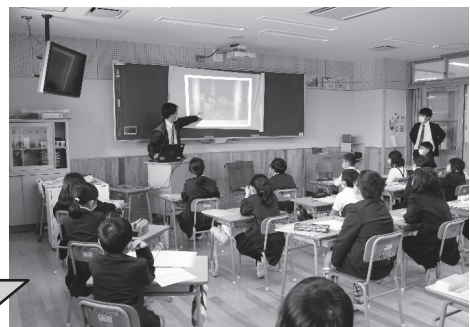
4月27日(火)、犀川小学校3年生の児童を対象に「犀川地域の魅力や自慢の場所」について出前授業を行いました。学校の校庭や通学路沿いなど身近なところに貴重な史跡があることに驚きの様子でした。

5月1日(土)、甲塚墓地で郡長正151回忌法要が行われ、博物館からも館長以下2名が参列しました。昨年は150回忌の節目の法要となるはずでしたがコロナ禍で中止。今年ようやく再開できて関係者も一安心の様子でした。

5月9日(日)、観光協会イベント「第2回みやこ歴史散策サイクリング」が豊津を舞台に開催されました。テーマは「幕末～明治のみやこを行く!」で、各所のゆかりの史跡を学芸員がガイド。参加者には豊津に関心を深めて頂けたようです。



▲江戸時代の地図の前で。学校の場所はどこかな?



▲犀川に残された貴重な歴史遺産について詳しく学びました。



▲育徳館・黒門の前で「学問の城」の歴史を解説



▲コロナ対策をとり慰霊の催しが2年ぶりに実現

みやこの歴史発見伝 138
令和とその時代 16

―豊前国分寺三重塔を科学する①―

10年目の「みやっこ君」

クールビズ推進に伴い庁舎内外で、職員が着用するシャツの「みやっこ君」を目にする機会が増えました。お馴染みのみやっこ君が町のマスコミキャラクターに採用されて今年で10年を迎えます。このみやっこ君が被る帽子は、町を象徴する文化財「豊前国分寺三重塔」をモチーフにしています。みやっこ君のメモリアルイヤーを祝して、今月から「豊前国分寺三重塔」を詳しくご紹介いたします。

豊前国分寺「七重塔」

令和の歌が詠まれた奈良時代は、今日のコロナウイルスと同様に「天然痘」と呼ばれる疫病が国中に蔓延し、150万人の人々が亡くなったと推計されています。今日のワクチン接種のような医療手段もなく、また同時に飢饉や戦



みやっこ君

乱も頻発するなど「国難」に陥ります。この状況に対し聖武天皇は、自身が深く信仰していた仏教の力によって国を鎮めることを目的として「奈良の大仏様」で有名な東大寺を総国分寺として全国

68の国ごとに「国分寺」の造営を命じました。豊前国分寺もそのひとつとして建立されますが、その当時の塔は七重塔であったと考えられています。現在の塔は明治29年(1896)に再建されたものですが、九州で100年以上が経過する塔は、この塔を含めても3例のみであること等から、現在、福岡県の有形文化財に指定されています。

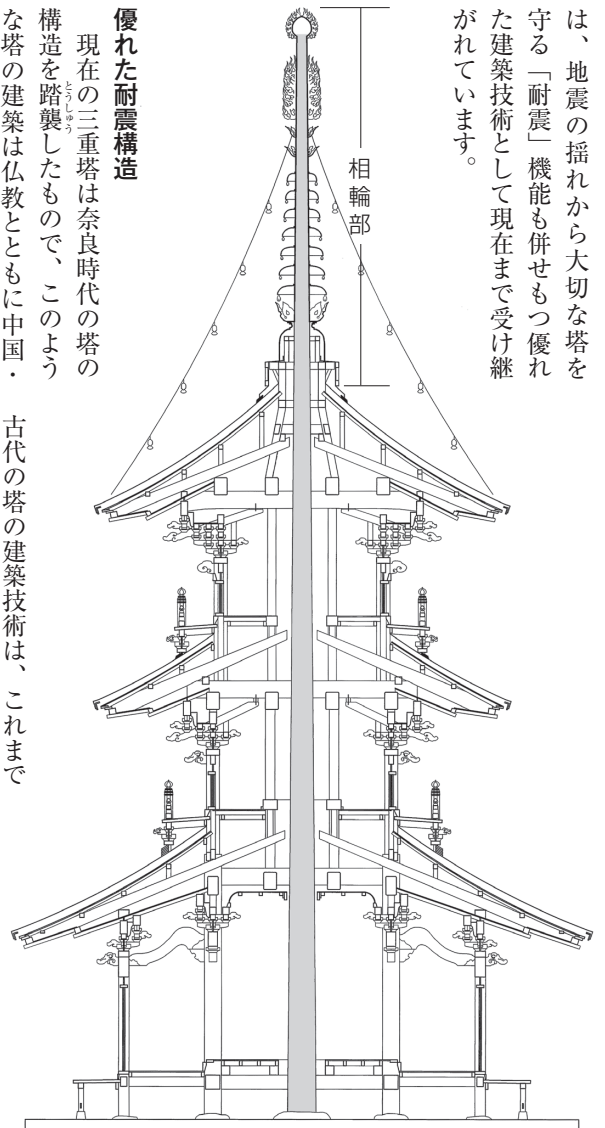
三重塔の構造

三重塔は塔の要となる中心軸に「心柱」と呼ばれる大型の柱が据えられており、地面に設置された礎石から3層を貫き塔の最頂部にある相輪部分(図面参照)を支持しています。しかしこの心柱は、屋根や床など塔の構造物を支える構造にはなっていません。つまり直立した心柱を屋根や床などが接触することなく鞘のように取り囲む構造になっているのです。古来、日本には巨大な柱を神聖視する「柱信仰」があり、この不思議な構造もこの信仰が反映されたという説もみられます。またこの構造

は、地震の揺れから大切な塔を守る「耐震」機能も併せもつ優れた建築技術として現在まで受け継がれています。

優れた耐震構造

現在の三重塔は奈良時代の塔の構造を踏襲したもので、このような塔の建築は仏教とともに中国・朝鮮半島を経由して伝えられたものです。しかし、心柱が無い構造の中国・朝鮮半島の木造塔は現在ほとんど残されていません。これに対し、8世紀初頭に建設された奈良県の法隆寺五重塔は、現存で世界最古の木造建造物に位置付けられ、現在、世界文化遺産に登録されています。国内にみられる同様の塔も火事・落雷による焼失等はみられますが、地震による倒壊記録はほとんど確認できません。地震国である日本で、千年を超えても倒れていない木造塔の存在は驚異的な記録で、1995年の阪神・淡路大震災をきっかけに古代日本の塔に用いられた耐震構造が注目され、これを現在の建物に応用する研究が進められました。



豊前国分寺三重塔断面図
着色部分が心柱(屋根・床の部材と接していないことが分かる)

スカイツリーに用いられた技術

10年前の東日本大震災では、ビルなど高層建築で長周期振動の事例が報告され、対策のための調査・研究には、塔の耐震性と併せて高所の揺れを抑制する機能が再検討されています。この翌年、自立式の電波塔としては世界一の高さ(634m)を誇る東京スカイツリーが完成していますが、この「最新の新塔」には奈良時代の心柱による制震構造の研究によって培われた技術が反映されています。東京スカイツリーの中央主軸には三重塔の「心柱」のように、直径8m高さ375mの鉄筋コンク

古代の塔の建築技術は、これまで建設されてきた様々な歴史的建造物の中でも特に優れた耐震構造であることが実証されました。

リーに完成していますが、この「最新の新塔」には奈良時代の心柱による制震構造の研究によって培われた技術が反映されています。東京スカイツリーの中央主軸には三重塔の「心柱」のように、直径8m高さ375mの鉄筋コンク

リート製のパイプが設けられ、中には非常階段が設置されています。この柱の地上125mより上層は展望台などを支える構造ではなく、三重塔にみられる心柱の構造とよく似ています。この柱による地震の揺れを制御する目的で考え出されたのが「心柱型質量付加機構」と呼ばれる世界初の制震構造で、古代の塔に用いられた心柱の制震構造に敬意を払った名称になっていることは特に注目されます。

古代の塔がなぜ地震に強いのか現在でもその明確な理由は分かっていません。ただ最新の科学でも解明することができない1300年以上前の建築技術の高さに敬服させられるばかりです。

(井上信隆)